



高い目標, 深い思索, 大きな飛躍

株式会社富士通研究所 代表取締役社長
富士通株式会社 CTO

佐々木 繁

富士通研究所は、研究者が自由な環境の中で世界最高峰の技術開発を行うために、富士通から独立した組織として1968年に創設され、本年11月に創立50周年を迎えます。これまで、革新的な研究開発成果を次々と生み出し、人、社会、ビジネスに新たな価値を提供することで世界をリードしてきました。それを可能にしたのが、変革に挑戦し続ける富士通DNAです。富士通グループの発展は、誰も考えていない新しい発想、その実現に挑戦し続けることを尊重する企業理念に支えられてきました。

近年、かつてない速度で世界経済や社会が変化し、ICTの研究開発においても、従来技術の延長による高性能化の追求だけではブレークスルーが起きにくいことを実感しています。これからのICTの役割は、世界が抱える社会課題を解決するためのイノベーションを生み出し続けることです。ICT企業として、富士通は時代や社会要請にマッチした新しい価値の創出に挑戦することで、変革し続けなければなりません。それを切り開くのが、先端テクノロジーです。

富士通研究所のミッションは、未来観と世界観から洞察した社会課題を解決するために、先端テクノロジーを研究開発することです。それらのテクノロジーを社会に実装することにより、社会の発展に貢献するとともに、新事業を開拓し、富士通グループの成長を牽引します。その中で、世界をリードする8つの先端テクノロジー領域を掲げ、戦略的に研究開発を推進しています。

富士通研究所の基本理念は、ICTによって人を極限までサポートすることで人をエンパワーメントし、人々の暮らしを豊かにすることです。しかし、ICTが社会に深く浸透し、カバーする範囲が広がる中で、便利さの反面、不安に感じるようになっていくことも事実です。そこで、ICTに全てを任せるのではなく、常に人が社会システムの中に入ること、人ならではの責任ある意思決定や最終的な判断ができるようになります。これが「Human-in-the-loop」の考え方です。富士通がヒューマンセントリックな先端テクノロジーの提供を標榜しているのも、この基本的な考え方に立っているからです。

世界の多岐にわたる社会課題を解決するためには、Cross Enterprises & Cross Industriesを基本としたDigital Co-creationが必要です。このためには、研究員が直接現場に出向き、現場の方々と一緒に感性を磨きながら研究開発を進める必要があります。そこで富士通研究所は、大学や研究機関、企業との間で、オープンイノベーションをグローバルに推進しています。世界の優れた知見やアイデアと富士通研究所の技術や経験により、困難な課題の解決にチャレンジしています。

本特集号では、富士通研究所が世界をリードする8つの先端テクノロジー領域の最新成果とDigital Co-creationの取り組みについて紹介します。

富士通研究所は、先代から受け継がれてきている「高い目標, 深い思索, 大きな飛躍」という理念のもと、イノベーション創出に向けた^{たゆ}めぬ努力を一人ひとりが実践し、世界中の人々の幸せと社会を発展させるために、新たな可能性に挑戦し続けていきます。